「小浜」の懸念 払拭遠く

国交省、鉄道機構 京都で自治体向け説明会

地元首長「新しい話ない」

北陸新幹線敦賀以西の延伸を巡り、京都府内で25日、国土交通省と鉄道建設・運輸施設整備支援機構（鉄道・運輸機構）による小浜ルートの説明会が開かれ、出席した地元自治体の首長らからは「新しい話が全くなかった」と不満の声が聞かれた。工事に伴う地下水への影響などが心配される中、着工へ府民の理解を得たい考えだが、府の担当者は「まだまだ不安が解消されたとは言えない」と指摘。住民向けの説明会を開催するよう求める意見もあり、懸念の払拭が容易でない現状をあらためて浮き彫りにした。

敦賀以西の整備に向け、国が京都府で開いた地元自治体向けの説明会＝京都市内

北陸新幹線延伸

「期待したが、新しいことは何も出なかった。まだまだ判断材料がそろっていない」。南丹市の西村良平市長は説明会後、記者団の取材に対し、不服そうに話した。

説明会には京都府と府内23市町村から職員ら41人が出席。鉄道・運輸機構は地下水への影響について、京都市を通る地下トンネルは構造上、地下水の質に影響を与えず、水位低下は予測されていないと強調した。

酒造りが盛んな同市南部では、地下水の流れの下流側を通り、影響がないように考慮したと説明。工事車両による交通渋滞の懸念に対しては、資材運搬などに使うルートを分散させる対応を講じるとした。

引き続き非公開で質疑応答が行われた。国交省や機構によると、石川県内で見直しを求める声が強い米原ルートも話題となった。同ルートに関して国交省は、調査を最初から始めることで4、5年の時間が必要になるとし、「必ずしも小浜より米原の方が（完成が）早いわけではない」とした。

説明会終了後には、質疑応答が非公開となったことについて、複数の記者が国交省や機構側に「これでは府民の理解を得られない」と詰め寄る場面も。同省の担当者は「非公開は自治体の意向」として理解を求めた。

説明会の会場前では市民団体が横断幕を広げ、建設反対を訴えた。同団体は説明会前、国交省に対して住民向けの説明会も開催するよう申し入れた。

国側は今後も京都での説明を続ける考えで、京都南部に位置する久御山町の信貴康孝町長は報道陣の取材に「今日がスタートなので、これから詳しい質問をしていきたい」と話した。

語り部列車 夏休みも

のと鉄道運行、個人も利用可

県能登地域公共交通協議会は25日、能登空港で開かれ、のと鉄道（穴水町）は被災経験を後世に継承する「震災語り部観光列車」を夏休み期間も運行すると明らかにした。4月6日～5月11日、7月19日～8月31日の土日祝日に運行する。

語り部列車は昨年9月か

能登ヒバのピアノ 復興の音色

県庁に寄贈、演奏会

演奏会で明るい音色を響かせる能登ヒバのピアノ

県木アテ（能登ヒバ）を使ったグランドピアノが25日、県に寄贈された。能登半島地震や奥能登豪雨からの復興を願い、木材販売会社フルタニランバー（金沢市）が能登ヒバを提供し、河合楽器製作所（浜松市）がつくった。同日、県庁で演奏会が開かれ、来場者が明るい音色に耳を傾けた。

演奏会に先立ち寄贈の式典が開かれ、フルタニランバーの古谷隆明社長は里山振興を目指し、能登ヒバを使った楽器製造に取り組んでいることを紹介。「ピアノが復興のシンボルとなるだけでなく、林業従事者の応援にもなればいい」と語った。

駒井知事と河合楽器の加藤晴一ピアノ事業部副事業部長もあいさつした。

演奏会には昨年の北國芸術賞を受賞したソプラノ歌手の石川公美さんや、ピアニストの田島睦子さん、山田ゆかりさんが出演。いしかわジュニアオペラアカデミーに通う子どもらとともに計10曲を披露した。

奥能登豪雨で

奥能登地区緊急治水対

項目	第1期 25年出水
河川の応急復旧	
河川の本復旧	
河川の改良工事	
治水対策の継続的な効果維持	
砂防・地すべりの応急対策	
砂防関係施設の本復旧	
砂防・地すべりの恒久対策	
農地・農業水利施設の整備	
治山施設および森林の整備・保全	
復興まちづくり計画との連携	
洪水浸水想定区域の見直し	
洪水ハザードマップの作成（見直し）	

ド・ソフト両面の対策は10年がかりで進め、災害に強い地域を目指す。

県庁で26日に開かれる奥能登地区流域治水協議会の対策検討部会で、緊急治水対策プロジェクト案として計画を提示する。

同案によると、計画期間の33年度末までを大きく3段階に区切り、実施目標を

掘削、護岸のかさ上げといった対策強化も実施する。

奥能登豪雨では、大量の土砂や倒木が短時間で河川に流れ込み、流路をふさいだことで氾濫被害が深刻化した。これを受け、河原田川や珠洲市仁江地区では29年度末までに砂防ダムの整備や地滑り防止ののり面対策工事を終える。

石川政治

きょう贈呈式

県は25日、今年度の文化奨励賞の受賞者4氏を発表した。同賞はいしかわ文化振興条例の制定を機に2015年度に創設され、これまでに次代を担う若手や中堅31人が受賞した。贈呈式は26日に県庁で行われる。受賞者は次の各氏。

▽林一平＝金沢市、美術工芸（彫刻）▽高森絢子＝白山市、美術工芸（陶芸）▽竹田理琴乃＝金沢市、音楽（ピアノ）▽中川千裕（望月太満

林一平氏

高森絢子氏

竹田理琴乃氏

中川千裕氏

光永氏が自治体国際化協会へ

国復帰の県職員

国との人事交流で各省庁から派遣され、31日付で県を退職する4氏の復帰先が25日までに固まった。総務部長の光永祐子氏（41）は4月1日付で総務省大臣官房付となり、その後、自治体国際化協会審議役に就く。

科学課災害等危機管理対策室長に転じる。国土交通省から出向している土木部長の桜井亘氏（57）は国土技術政策総合研究所土砂災害研究部長となる。

財政課長の山本洸大氏（32）は総務省大臣官房秘書課長補佐に復帰後、内閣官房に出向し、内閣人事局参事官補佐に就く。

被災地の課題解決策考える

都内で企業交流会

能登の被災地が抱える課題解決に向けた県外のスタートアップ（新興企業）と県内企業による交流会が25日、都内で開かれ、約80人が情報を交換したり、復興策について考えたりした。

県が能登でのスタートアップの活動機運を高めるために企画した。県内の7社・団体が取り組みに関わる内の4社が説明した。

参院選候補選び 来月に持ち越し

国民県連

国民民主党県連は25日、金沢市内で常任幹事会を開き、夏の参院選県選挙区について、3月中をめどとしていた候補者擁立を4月に持ち越すと決めた。党の公募で有望株が見つからず、選定が難航している。公認候補の擁立作業と合わせ、引き続き野党候補の一本化も探る。県選挙区では現時点で、自民党現職の宮本周司氏、参政党新人の牧野緑氏が出馬を予定している。

金沢城アプリ 機能を拡充

発掘調査結果など紹介

県金沢城調査研究所は25日までに、金沢城と兼六園の解説アプリ「金沢城ARアプリ」の機能を拡充した。1990年から実施している二ノ丸御殿発掘調査などの成果を紹介する14コンテンツを追加した。

動画投稿サイト「ユーチューブ」内の「金沢城石垣クセスしやすくした。これまで現地のロードが、現地以外でを、現地にいるように見ながらくことができ

利用、支払い スマホ1台

あす会員証デジタル

いしかわ総合スポーツセ（金沢市）は27日、電子会員ムの運用を開始する。スマンで利用できるデジタル会員たにつくり、施設料金の支払ャッシュレス決済を導入するホ1台で全てのサービスを せ、利便性を高める。

これまでは会員登録の際、申込用紙に記入しなければな入退館時は紙の会員証とチケ